

令和2年度 第1回スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時	令和2年5月25日(月) 13:57~16:20
場 所	総合文化センター 412号室
参 集 者	出 席／中條庸右委員、山岸文章委員、佐藤紀巳雄委員、齋藤 勉委員、 田中 学委員、上松由美子委員、大滝美樹委員、穂積 祥委員 欠 席／角南俊介委員 事務局／教育長、教育次長(2名)、スポーツ振興課長ほか
配布資料	・ 次第 ・ 出欠席名簿 ・ 資料1-1 令和元年度スポーツ振興事業における評価 ・ 資料1-2 スポーツ振興事業に係る評価基準 ・ 資料2 令和2年度スポーツ振興事業における状況 ・ 資料3 (概要) 酒田市体育施設整備方針 ・ 資料4 令和元年度スポーツ振興課所管施設利用状況 ・ 資料5 令和元年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」の概要 ・ 参考資料 令和元年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」の概要

【委嘱状交付】

1. 開 会 (略)

【事務局より会議の成立について報告】

・「酒田市スポーツ推進審議会に関する条例」第6条第1項により、審議会は、委員総数の過半数の出席が要件となっている。本日の審議会は、委員総数9名のうち、出席者8名となっており、審議会が成立していることを報告する。

2. あいさつ (教育長)

・今年度の酒田市のスポーツ事業をどう展開できるか心配している。
・国レベルではオリンピック延期の話、高校野球、インターハイなど軒並み中止となっており、実現が難しい状況になっている。
・懸案である酒田市の体育施設の整備については、合併以来課題だったわけで、いよいよ検討していただくことになった。
・今後ともあらゆる状況を考慮しながら、進むべき道について十分審議していただき、率直な意見を頂戴したい。

3. 協議

(1) 令和元年度の事業評価について【資料1】

(2) 令和2年度の事業状況について【資料2】

(資料に基づき、事務局より説明)

【委員からの質疑・意見等概要】

○(委員)・コロナウイルス感染症が出たことに伴って事業の見直しやプラスの方向に考えたものなどあれば教えていただきたい。今まで取り組んでいなかったが、このような状況だからこそできる事業、思い当たるものはあるか。

⇒コロナウイルス感染症の影響で色々な大会や事業が中止になり、その予算が経済対策に回される。その中でも、例えば、スポーツ推進委員会負担金は200万円ほど予算措置されているが、庄内大会、県大会、東北大会、全国大会に参加する費用弁償が含まれている。今年は各種大会が開催されない方向で動いているが、単純に市へ戻すのではなく、20数地区ある地域でスポーツ推進委員を中心に、地域で活動する際に利用する消耗品などに回せないかなど考えている。

○(委員)市民体育祭が中止になったわけだが、陸上競技場の修理の日程に変更はあるのか。
⇒工事期間に変更はなく、予定していた日程で行う。

○(委員)中体連の現状を話させていただく。今年度、中体連設立50周年の年にあたるので記念事業も考えていたが、コロナ禍なので難しい。来年度にスライドしようか考えている。部活動のあり方については、様々なところで話に出していかなければならない。教員の働き方改革の関係もあり、子ども達の競技力向上も当然だが、部活動の本当の姿というか、愛好家的な子どもたちが実践的に自発的に部活動を行っていく、新しい部活動の姿を目指していきたいと考えている。総合型地域スポーツクラブと手を結びながらやっていると実現は難しいと思っている。

○(委員)スポ少の本部大会について、例年7月中旬から8月いっぱいまで県スポ少交流大会の予選と位置付けて実施している。もし県スポ少交流大会が中止となった場合は、子ども達が十分運動ができる状態になった時期(9月か10月)に本部大会を開催できないものか自分としては考えている。中止になっている大会もあるので、本部大会だけは開催してあげたいと考えている。

(3) 酒田市体育施設整備方針(案)について【資料3】

(資料に基づき、事務局より説明)

【委員からの質疑・意見等概要】

○(委員)ソフトボールができる場所として、両羽公園、亀ヶ崎公園、光ヶ丘多目的グラウンドがある。亀ヶ崎だと朝早い時間からゲームをするとクレームが来る。両羽公園は駐車場がない。空いている場所を探すと旧酒田北高校グラウンドが空いている。また、国体記

念体育館前の飯森山グラウンドもあるが、サッカーだけやるのか。もしできることならばソフトボールで使えないか。

⇒亀ヶ崎公園については、早朝に利用すると苦情があるので現在利用していないと聞いていた。両羽公園の駐車場の話は、オランダせんべいの駐車場が利用不可になったという認識で良かったか。河川敷には置けると思うが。

○（委員）朝早いので車から降りてすぐグラウンドというのが理想。

⇒グラウンドゴルフの人たちとすみ分けができるのであれば、河川敷の駐車場も利用いただきたい。飯森山のグラウンドでソフトボールができないかという話だが、現段階ではこの場ですぐ使えるように検討していくとは簡単には言えない。ソフトボールの利用頻度がどれくらいなのか、芝養生への影響など考えながら、内部で検討していきたい。

○（委員）かんぼの宿酒田が3月いっぱいまで営業を停止した。冬期間のスポーツを考えた際に屋内ドーム施設がせつかくあるのもったいないと感じる。生涯スポーツ、競技スポーツ、市民スポーツのために活用方法を検討してほしい。

⇒かんぼの宿酒田のスワンドームの今後の利用については、確定した情報は持ち合わせていない。

○（委員）大きい大会をするための施設の見直しについては賛成である。旧市内、八幡・平田・松山の各地区のカラーを活かした偏りのないような配置を願う。

⇒合併したら体育館が無くなったとか、地域の方々が利用する馴染み深い施設が無くなったとならないよう、それぞれの地区に準拠点施設は残したいということで話し合いを進めているところである。

○（委員）学校教育課の事業で家族旅行村にてキャンプをやっているわけだが、施設整備だけでなく、他事業との関連の中で整備を考えてほしい。将来的にキャンプ場を無くすという話があったので、どうなのか疑問に思った。

⇒市の施設以外でも周辺施設や環境と連携するような施設ならば、体育施設だけを考えて廃止ということにはならないと思う。八森自然公園の付近には、ゆりんこ（入浴施設）があり、体育施設で汗をかいた後、温泉に入って、産直によって買い物をしてといった流れができると八幡地域の活性化にもつながると思う。そういった観点からパークゴルフ場の拡張の話が出た経緯があるので、アンテナを上げながら考えていきたい。

○（委員）体育施設も避難所として想定されていると思う。各学校も避難所にあたっているわけだが、3密を考えると限られた人数しか受け入れることができない。体育施設ではあるが、他の役割も担う施設として、見極めを持って施設の廃止等を進めてほしい。

⇒体育施設の本来の目的以外の利用方法についても総合的に考えながら施設の統廃合を考えていかなければならない。代替施設がどこになるのか危機管理課等の意見を伺いながら進めていきたい。

○（委員）市体育館については、方向性として機能移管・廃止とあるが、市体育館は生涯ス

スポーツの拠点として利活用する市民の方々が多くいる。中でも11月から3月までの季節限定のスケートリンクは、冬期間のスポーツ振興には欠かせないものだと思う。あれを簡単に廃止ではなく、機能移管する考えはあるのか伺いたい。スキー人口よりスケート人口の方がきっと多いはず。

⇒スケートリンクの利用人数は17,729人いる中で、雪不足という要因もあるが松山スキー場は235人という状況。例年でもスキーは3,000人から4,000人、それに比べてスケートは20,000人というレベルでの利用者の推移である。市体育館の機能移管・廃止を考えた場合、スケートリンクをどうするかが大きな問題となっていた。スケートリンクを新設することは困難。市体育館を廃止した場合にスケートリンクが設置できる別の場所を検討していく必要がある。

○(委員) 屋内のスケートリンクという理由で、市外、県外からも利用者が来ているようである。冬期のスポーツ振興を考えれば、より良い施設活用について検討をお願いしたい。

(4) その他

- ・令和元年度スポーツ振興課所管施設利用状況について【資料4】
- ・令和元年度「酒田市のスポーツの推進に関する市民アンケート調査」の概要【資料5】
(資料に基づき、事務局より説明)

【委員からの質疑・意見等概要】

○(委員) アンケートについて、成人のスポーツ実施率について数値的にはアップしているが、より全国の目標数値に近づけるためにスポーツ振興課としてどんな施策を取るべきと考えているか。

⇒サークル活動として会社単位で広めていってもらえるのも一つだと思う。仲間がいれば、運動しやすいという意見もある。ファミリーで参加できるイベントの企画ができればと思っている。昨年度に市体育協会でヨガ教室を開催していて、一定程度の女性が参加していたのを見ていた。その一方、男性はなかなか参加していないので、男性が喜ぶイベントも企画していきたい。

○(委員) 総合型地域スポーツクラブを充実させることによって、スポーツ実施率を数ポイントでもあげることができると常日頃から考えている。48.8%ほどの年代から割り出した数字か。

⇒アンケートを回収した412件の数値から割り出した数字である。

○(委員) スポーツに興味を持たせるイベントができないか考えているところである。コロナの影響下で、どこまでイベントを開催して良いのか分からない。日本スポーツ協会のガイドラインや山形県からも指針が出ているが、実際のところイベント実施の判断がつかない。酒田市でイベント開催実施における独自の方針はあるものか。

⇒イベントの括りで考えると、参加者が50人までを上限にすると聞いている。当然3密の回避だったり、除菌だったりとかスポーツイベントに限らず、全てのイベントでの共通し

たルールがある。スポーツのイベントとなると、体を動かしながらの3密回避となるので非常に難しい。スポーツに関するものは持ち合わせていない。施設利用に伴い、利用する際は自分で防止策を取りながら、自主的判断で利用を考えなければならない。イベントに参加する際も自主的判断に任せる部分もあると思う。

○（委員）参加する側、主催者側で万全な体制がどれだけ取れるか。中止にするのは簡単だが、どうしたら開催できるのかを考えることが重要ではないか。イベント開催にあたっては、誰かに許可を得るものではないわけだから。

○（委員）指導者の資質を高めるといったことは、重要なところ。新規にスポーツ推進委員になられた方が21名いるということだったが、新採研修のような場は計画されているのか。

⇒県主催で初任者研修を毎年実施している（R2年度は6/20開催予定だったが延期）。市スポーツ推進委員会でもハンドブックを渡して内容をみてもらう。部会や研修会等で研鑽を積んでもらう。

○（委員）年間何回くらいあるのか。

⇒年間10回程度はある。指導者という形をとると、競技スポーツとは違うところだけ認識していただきたい。主たる業務としては、地域の教室を企画したり、市との調整役をしてもらったりすることである。

○（委員）生涯スポーツを高めるためには、スポーツ推進委員は絶対必要。

4. 閉 会（略）

以上